

# 水路に水車設置し発電

大仙市の  
長楽寺公園 あずまやに照明点灯

大仙市は25日、同市豊川字久保の長楽寺農村公園に設置した小水力発電施設の点灯式を行った。公園内の水路に流入する湧水で水車を回して発電。毎日3〜4時間、夜間にあずまやの照明1基をともす。



発電施設を見学する参加者ら

長楽寺農村公園保全会の会員のほか、豊川小学校の児童ら約30人が参加。栗林次美市長が「これからは身近なエネルギーを利用していかなければいけない。小さい施設だが誇りにしたい。子どもたちの学習にも役立ててほしい」とあいさつ。栗林市長と同保全会

(2012年 12月27日付 秋田魁新聞朝刊)

の鈴木清敏代表、同校の佐々木魁星君（6年）が照明の点灯スイッチを押し、明かりをともした。

水車や発電機は、環境に優しいエネルギーを利用する機運を高めようと市が今年10

日、公園内の池に設置した。水路に流入する毎秒約50リットルの湧水で水車を回して約6ワットを発電。バッテリーに蓄電し、夜間に照明をともす。事業費は140万円で、県から半額補助を受けた。発電の様子を

見ながら、照明を増やすことも考えている。市が設置した小水力発電施設は、同市大沢郷宿の宿農村公園に続き2件目。

（大原進太郎）